

## 第9回蚕糸絹業提携確立技術・経営コンクール表彰

一般財団法人大日本蚕糸会主催の「第9回蚕糸絹業提携確立技術・経営コンクール表彰式」は、令和3年5月14日（金）東京都千代田区有楽町の蚕糸会館において挙行する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止することといたしました。

なお、本コンクールへの出品数は、養蚕農家が30点、農家団体が1点の合計31点あり、この中から農林水産大臣賞1点、農林水産省生産局長賞1点、大日本蚕糸会会頭賞3点が選出されました。

### 農林水産大臣賞

五十畑 茂・啓子 夫妻（栃木県小山市）

### 農林水産省生産局長賞

藤田 久男・うめ 夫妻（栃木県那須郡那珂川町）

### 大日本蚕糸会会頭賞

佐藤 盛・康子 夫妻（岩手県一関市）

黒澤 仁・真佐子 夫妻（福島市飯野町）

浅井 広大・香 夫妻（群馬県富岡市）

（敬称は略させていただきました）

## 農林水産大臣賞 1点

養蚕農家 : 五十畑 茂・啓子 夫妻

### (功績概要)

五十畑夫妻は、養蚕と露地野菜に主力を置き、夏季は養蚕、秋季～春季はゴボウ、春大根の複合経営を行っています。養蚕では、年4回飼育し、計1.6トンの繭を生産し、また、5年間の平均繭生産量は、平均1.9トンと安定した繭生産量を上げており、高く評価されます。飼育に関しては、蚕室等消毒薬としてのホルマリンの使用中止に伴い、ポリリン酸ナトリウム等の混合液を率先して施用するなど様々な工夫を行い、養蚕の省力化と蚕作の安定を図っている点も高く評価されます。

同氏は、第3回コンクールで生産局長賞を受賞していますが、栃木県の名誉農業士(養蚕)、小山市の認定農業者であり、二期にわたりJAおやま養蚕部会長を歴任し、妻の啓子さんもJAおやま養蚕女性会の役員として活躍しています。また夫妻は、本会新規事業者支援事業における研修受入農家として、後継者の視察、研修を受入れ、積極的に養蚕技術指導を実践しており、夫婦の活躍は高く評価できます。さらに、高度な養蚕技術を取り入れた複合経営は安定していることから、前回受賞時より格段の進歩が見られ高く評価されます。

## 農林水産省生産局長賞 1点

養蚕農家 : 藤田 久男・うめ 夫妻

### (功績概要)

藤田夫妻は、養蚕、稲作、キノコ栽培の複合経営の中で、繭収入の割合が粗収入の85%を占め、養蚕中心の経営を行っています。養蚕については、年4回の蚕飼育で1トンの繭生産を上げています。特に春蚕、夏蚕の生糸量歩合は25%、解じょ率90%以上と極めて品質の高い繭を生産しています。また、その生糸は高級着物の原材料として利用されています。

桑園管理においては、地域、気候に合わせた2品種を導入し、収穫には桑条収穫機を利用し省力化を図っています。上蔭作業の際には、尿取器の他高分子ポリマーシートを利用して、繭の汚染を防ぎ、また窓、出入り口に遮光カーテンを張り、栃木式風洞蔭管理法により上蔭中の温度を適切に管理し、湿度管理にも配慮し、解じょ率の極めて高い繭生産を実現しています。さらに、夫妻は製糸会社に出向き、積極的に選除繭の研修を受講し、生糸量歩合、解じょ率の高い繭生産により、単価当たりの高額繭代の実現など、工夫と努力により経営の安定と向上に努めています。このように夫婦の活動は高く評価できます。

## 大日本蚕糸会会頭賞 3点

**養蚕農家** : 佐藤 盛・康子 夫妻

### (功績概要)

佐藤夫妻は、養蚕、稲作及び菌床椎茸生産の複合経営農家で、養蚕については、年4回の飼育を行い、繭生産は580kgです。粗収入に占める繭収入の割合は27%ですが、高品質の繭生産を行っています。特に育蚕及び上簇中の温度管理を徹底することにより、高い解じょ率を維持して、高繭単価につなげ、安定した養蚕経営を行っています。そして、その生糸は高級呉服地の原料として利用されています。このように佐藤夫妻は、安定した養蚕経営を実践するとともに、養蚕部長として地域の指導的役割を果たし、提携グループ中で欠かせない養蚕農家として高く評価されています。

**養蚕農家** : 黒澤 仁・真佐子 夫妻

### (功績概要)

黒澤夫妻は養蚕及び稲作の複合経営農家で、経営的には繭収入の割合が粗収入の85%で、養蚕中心の経営を行っています。蚕飼育は年5回行い、繭生産量は年間1.3トンと、高い生産量をあげています。夏蚕期から晩秋蚕期にかけて気候(高温)の影響により蚕飼育及び上簇環境の悪化が懸念される中、箱当たり収繭量が前年度を上回ったことは夫妻の飼育技術の高さを示すものとして高く評価されます。

黒澤夫妻はそれぞれJA養蚕部会及び地区女性部の役員として地域の養蚕振興、地域活性化に大きく貢献しており、地域の模範農家となっていることは高く評価できます。

**養蚕農家** : 浅井 広大・香 夫妻

### (功績概要)

浅井夫妻は、夏季は養蚕、冬季は下仁田ネギ栽培の複合経営農家で、繭収入の割合が全体の58%で、養蚕が経営の中心となっています。蚕の飼育は年5回で、年間の繭生産量は860kgです。浅井氏は、平成28年に地域おこし協力隊として、養蚕に参入、令和元年から生産拠点を富岡市に移し、令和2年には新たな蚕室を建設、大型空調機を導入し養蚕の規模拡大と繭質の向上に積極的に取り組んでいます。その結果、繭生産量が前年比189%増となり、夫妻の養蚕に対する意欲と活動は高く評価されます。また当該地域において若手就農農家として、今後の活躍が期待されます。